

本邦産ヨダンハムシ属 *Paropsides* に就いて

農學士 湯 淺 ^{ヒロ}啓 ^{ハル}温

本属はハムシ科 Chrysomelidae ハムシ亜科(新稱) Chrysomelinae に属し、その 1 種及び 1 變種は既に HEYDEN (2)* に依つて朝鮮から記録されてゐるが、私は矢野先生所藏標本中に朝鮮産と同種のもので信州及び樺太で採集されてゐるのを見出した。之は本州及び樺太からは未記録であるを考へるのこゝろ、且つ朝鮮に於ける梨の害蟲ヨダンハムシの學名を決定するを得たので、茲に本属に就いて報告しておかうと思ふ。

本稿を草するに當つて、標本と文獻を自由に檢するを得しめられた矢野先生並びに標本を御寄贈下さつた村松茂、佐藤覺兩氏に厚く御禮を申上げる。

Paropsides MOTSCHULSKY

ヨダンハムシ属(新稱)

Paropsides MOTSCHULSKY in SCHRENCK, Reisen Amurl. ii, 1860, p. 192.

WEISE. Cat. Col. (Junk-Schenkling,) Pars 68, 1916, p. 170.

MAULIK. Fauna Brit. Ind., Col., Chrysom. 1926, p. 71.

模式種、*Paropsis duodecimpustulata*, GEBLER,

卵形又は圓形、背面は著しく膨隆し、腹面は扁平。色は暗褐、帶赤褐又は淡黄で、斑紋を有するを常とするが、有しないものもある。

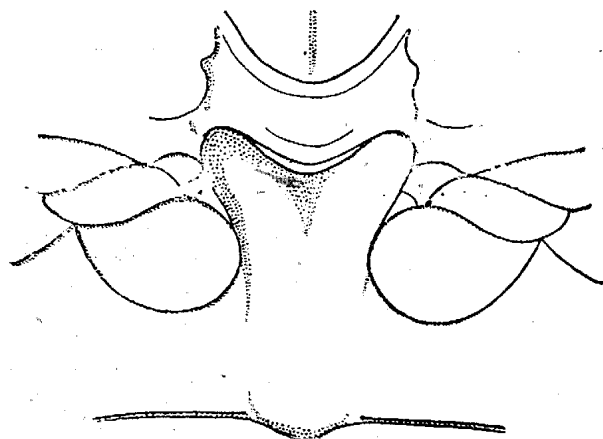
頭部は長さよりも幅廣く、前胸背の凹陷に適合し、表面には點刻がある。epicranial suture 明かで、模範は的な Y 形をなす。(但し、epicranial stem の後方端は頭頂の央に終り、後頭に達しない)。觸角は長くなく、僅かに前胸背の基部を越える。大顎は強大。上唇は幅廣く、剛毛を有す。下唇鬚の末端節は

* 人名の次の數字は文献の番號を示す。以下同様。

廣大で、幾らか壓せられて截形をなす。

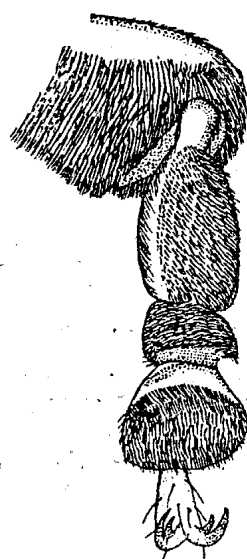
前胸は長さに比べて幅極めて廣く、前縁は凹陷し、後縁は大きく弧狀をなすので一般には後縁角を認められず、又側縁も充分明かでない。前縁角は普通丸味を帯びる。

第 一 圖



ヨダンハムシ。前胸腹板、前基節
前轉節中胸腹板の前部。

第 二 圖



ヨダンハムシの後肢跗節の腹面圖。

稜狀部は三角形で、先端の角度は區々である。

翅鞘は點刻列を有し、其の數は變化し、且つ點刻が數多くなり、混雜して辛うじて列を認め得るに至る事が多い。

腹面。前脚基節窩は後方に於て開く。前胸腹板は膨起し、長く、後端は八狀の凹みを有して中胸腹板の前端小突出部に適合する(第1圖)。各翅鞘の epipleuron は垂直で、凹形、基部では先端でよりも廣い。跗節第一節は廣く、卵形、靜止の時は跗節端外側の凹みに適合する。爪は下面に鋭い附屬物を有す(第2圖)。

分布。東シベリア、支那、日本、インド、オーストラリア。

ハムシ亞科の他屬とは、前胸の形狀、爪の構造、epipleuron の垂直にして、纖毛様剛毛のない點等に於て容易く區別する事が出来る。

この屬は、WEISE.(7) に依るに、*Aparopsis* WEISE (1908) と *Paropsides* の二亞屬に分れてゐるが、前者は本邦及び近接地方に知られてゐず、以下記すものは後者に屬してゐるから、茲では亞屬に就て述べる必要を認めない。

本属のもので今日迄に本邦産として知られてゐるのは、HEYDEN(2) が朝鮮から記録した *P. duodecimpustulata* GEBLER と *P. duodecimpustulata* var *hieroglyphica* GEBIER の外、WEISE (7) * は *P. nigrofasciata* JACOBY (1888) の産地として朝鮮をも挙げてゐる(模式標本は支那九江府産)から、合計2種1變種なる譯であるが、最後のものは WEISE 以外に記録したのを見ず、又標本も検する事が出来なかつたので、之の朝鮮に産する事は未だはつきりしてゐない。

Paropsides duodecimpustulata GEBLER (第三圖及第四圖)

モンキヨダンハムシ (新稱)

Paropsis duodecimpustulata GEBLER in HUMMEL, Essais ent. iv, 1825, p. 54.

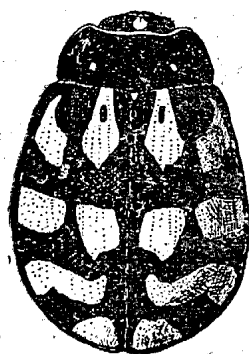
Paropsides pustulata HEYDEN, Hor. Soc. Ent. Ross. XXI, 1887, p. 263.

Paropsides 12-maculata JACOBY, Proc. Zool. Soc. Lond. 1888, p. 348.

Paropsides duodecimpustulata WEISE, Cet. Col. 68, 1916, p. 170.

MAULIK, Fauna Brit. Ind. 1926, p. 73.

第三圖



モンキヨダンハムシ
(水原、雌)

第四圖



モンキヨダンムシ
(信州、雌)

卵圓形、膨隆し、テントウムシに似る。黑色、各翅鞘には暗褐乃至淡褐色の斑紋があり、2個宛横に3列に並び、頭部、胸部、腹部にも同色の部分が少くある。翅鞘の斑紋第一列は基部にあつて、會線 suture に

近い一紋は略菱形で、大きく、前端は翅鞘基部縁に達し、一個の標本ではこの紋中に小さい黒長紋を有し、一個の標本ではこの紋の前外側に連つて小褐色部を認められる。第二列は翅鞘中央より稍後方にあり、會線に近いのは略

* 彼は、然れ、前二者の産地に朝鮮を入れてゐない。

四角形、側方(前縁)にあるのは略短形をなす。第三列は第二列と翅鞘端との中間にあり、2個融合してV状の長い一紋となるを常とするも、融合しないものもある(第三圖)。是等3列の外に翅鞘端に近く1個の小褐色紋があるので、全翅鞘上には通常12個(時に14個)の斑紋がある事となる。頭頂 epicranial stem に沿ふて後方に褐色紋のあるを普通とし、前頭楯及び上唇は褐色、(前頭十後頭楯も黒褐色なのがある)、上唇及び後頭楯前側方に生ずる長剛毛は淡黄褐色、大顎端、下唇鬚は暗赤褐色、(總基節、亞腮鬚も暗赤褐色なものもある)。觸角の基部5節は黄褐色、其より末端は暗色なのを普通とする。前胸背は前縁褐色なるの外、側縁も同色、或は其上に側縁と中線との央稍後方に1個宛小褐色紋を有する事がある。前、中胸腹板と後胸腹板の中央とも赤褐乃至暗赤褐色を帯びるものがある。各脚轉節、腿節端、脛節端、爪及び跗節の一部或は全部も暗褐色を呈す。腹部各腹板の後縁(及び標本によつて側縁も)暗褐乃至赤褐色である。稜狀部は周縁を除いて赤色刻。

頭部は幅廣く、全面點刻があり、平らでない、觸角は前胸背の基部を少しく越え、第一節は大きくて棍棒狀、第二節は第三節よりも短く、第三節は第四節より少しく長く、第五節は第四節と殆んど同長、第六節から末端第十一節に至る迄は少しく幅廣い。前胸は長さに比べて幅極めて廣く、其の形狀はこの屬の特徴である、背面は平らでなく、各側縁近く淺い縦陷がある、全面點刻で被はれ、點刻は中央部では細かく、側部では粗い。稜狀部は三角形、平滑、鏡下では表面に微細な點刻が認められるが、普通全くない様に見える。翅鞘は前胸よりも幅廣く、肩部には不明瞭な低い隆起がある、點刻は餘り密ではなく、會線に近いものは多少條列をなすも、慥かに數へられる程規則正しくなく、點刻列の規則正しさは個體によつても異なる。腹面は僅かな毛があるが、大體平滑、光澤があり、淺い稍大きい點刻が少しく認められる。

長さ。♂ 7.2mm, ♀ 6.0-6.5mm。幅。♂ 5.5mm, ♀ 5.5-6.0mm。

產地。朝鮮—水原(1918年7月7日、村松氏、1♀)、樺太—豊原(1922年7月矢野先生、1♂、1♀)、信州(年月不詳、千野光茂氏、1♀)。

分布。東シベリア、支那、日本(朝鮮、樺太、本州)。

Paropsides 属のものを本州及び樺太から記録したのは之が最初であらう。殊に信州でこれてゐる事は分布上極めて興味深い。本州の他地方及び北海道にも居るかと思はれるから注意して頂きたい。

樺太産のものは朝鮮産のものと大差なく、信州のものも翅鞘第三列の紋が 2 個である外に著しい違ひがない。

Paropsides duodecimpustulata (GEBLER) var.

hieroglyphica (GEBLER) (第五圖)

ヨ ダ ン ハ ム シ

Paropsis hieroglyphica GEBLER in HUMMEL, E. saient. iv, 1825, p. 55.

Paropsides hieroglyphica HEYDEN, Hor. Soc. Ent. Ross. xxi, 1887, p. 263.

JACOBY, Proc. Zool. Soc. Lond. 1888, p. 348.

Paropsides duodecimpustulata ab. *hieroglyphica* WEISE, Cat. Col. 68, 1916, p. 170.

Paropsides duodecimpustulata var. *hieroglyphica* MAULIK, Fauna Brit. Ind. 1926, p. 73, fig. 23.

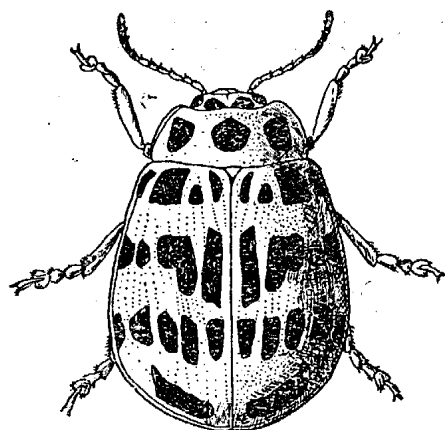
Lithoptera (*Chrysomela* *) *nigrogemmat* AOYAMA, Byotyug. Zs. iv, 1917, p. 922, figs (nec MOTSCH.)

前種と形態的には何等差異が認められず、色彩だけを異にする。

赤褐色(矢野先生の所蔵標本中の支那産のものでは淡黄褐)で、頭部、前胸背及び翅鞘に次の様な黒紋を有する。頭頂 epicranial stem と複眼との間に 1 個宛合せて 2 個の大紋。前胸背の中央に 1 個、両側縦陷上に 1 個宛合せて 3 個の不正圓紋。各翅鞘上には横に並ぶる紋列があり、各列は縦に長い 5 紋からなる、ある紋は可なり長く、ある紋は極めて小さい、第一列の第三及び第四紋(會線から側方に數へる、以下之に倣ふ)は融合して全然一紋をなすのが普通で、第二列第二及び第三紋も融合し、更に第一紋と融合せんとする傾向があり、第四及第五紋も融合したのものがある、第三列第四及び第五紋も融合し、第二及び第三更に第一紋も融合せんとする傾向がある。是等の紋列の外に翅鞘端部斜横に長い紋がある。それで全翅鞘上の斑紋數は 32 個乃至 24 個

* もと Coapomel とあるも、*Chrysomela* の間違ひであらう。

第五圖



ヨダンハムシ
(水原、雌)

の變化がある。(支那産のでは頭、胸、翅凡ての斑紋が朝鮮のに比べて小さい)。其他は大顎端が黒色なる以外、大體赤褐乃至暗褐で、觸角の色も前種と同じい。

長さ。♂ 7.2mm, ♀ 9.2mm。幅。♂ 6.0mm, ♀ 7.0mm。

産地。朝鮮—水原(年不明4月30日、佐藤氏、1♂。1918年7月7日、村松氏、1♀)。

分布。東シベリア、支那、朝鮮、インド(Assam; Burma)。

青山哲四郎氏(1)及び勸業模範場報告(4)にあるヨダンハムシの記載及び圖は槌かにこの變種だを考へられたが、尙、念の爲め、村松氏を煩して、朝鮮でヨダンハムシと呼ばれてゐるものを送つて頂いた結果、私の考への間違ない事が判つた。樺太及び本州からは未だこの變種の方は見出さない。

又、之は頁による先取權によつて前種の變種となつてゐるが、斑紋の状態をよく見ると、僅少な個體からでも、*hieroglyphica* から *duodeimpululata* への移行行きが認められるから、生物學的にはモンキヨダンハムシの方がヨダンハムシの變種だを考へられる。尙、Weise(7)はこの變種を前種の變形 aberratio としてゐるが、兩者の色彩に多少の變異はあるにしても、中間形は産しないらしく(インドではこの變種だけ)、まづ固定的なものと思はれるので、今は Maulik (5)と同じく變種を認めておきたい。それから MAULIK による、之はインドでも矢張り梨を害するそうである。(西ヶ原農事試験場にて)。

主要文獻。

- (1) AOYAMA, —梨の新害蟲「ヨダンハムシ」に就きて。病蟲害雜誌、T. iv, 1917, pp. 922-924.
- (2) HEYDEN, L. von. Verzeichniss der von Herrn Otto Herz auf der Chinesischen Halbinsel Korea gesammelten Coleopteren. Hor. Soc. Ent. Ross. xxi, 1887, pp. 243-273.
- (3) JACOBY, M. Descriptions of new Species of Phytophagous Coleoptera from Kiukiang (China.) Proc. Zool. Soc. Lond. 1888, p. 348.
- (4) 勸業模範場—研究報告(害蟲に關する調査)、1919.
- (5) MAULIK, S. —Fauna Brit. Ind., Col., Chrysom. Chrysoml & Haltic. 1926.
- (6) MOTSCHULSKY, V. de Schrenck, Reisen Amurland ii, 1860.
- (7) WEISE, J. Cot. Col. Junk-Schenkling Pars 68, 1916.